

## 習近平時代の政治、習近平の政治認識とリーダーシップの特徴 ——近刊拙著の内容に基づき——

鈴木 隆（大東文化大学東洋研究所）

### はじめに：鈴木の前作

- ・「台湾統一をめぐる習近平の政治論——台湾政策、政治構想、歴史認識」『東亜』（霞山会）2023年11月号、68—77頁
  - ・「中国で『沖縄特区』論、強まる沖縄への不穏な動き」東洋経済オンライン、2014年10月17日（<https://toyokeizai.net/articles/-/833936>）
  - ・『習近平研究——支配体制と指導者の実像』（東京大学出版会、2025年近刊、<https://www.utp.or.jp/book/b10105498.html>）
- 本報告では、当該書籍の序章と終章、及び、本論の一部の要点を簡単に紹介する

### 1. 習近平とはどのような指導者か？

#### a) 時代状況と指導者像の基本的視座

##### ①「3つの終焉」

- ・政治：集団指導体制の終焉
- ・経済：高度成長の終焉
- ・社会：人口増加の終焉

##### ②「3つの顔」

- ・保守主義の官僚政治家
- ・実戦経験のない軍人政治家
- ・地方指導者としての長いキャリア

#### b) 政治論のなかの持続的要素：支配と指導スタイルの要点

- ①一党支配の堅持とエリート主義の政治的伝統
- ②普遍性への留保と「場」のもつ独自性の強調、現場・情報・調査の重視
- ③経済発展と思想統制の並進、「闘争」観念に基づく言論と学問の自由の否定
- ④政治腐敗による民心離反への警戒と「歴史の周期律」
- ⑤「圧力」型リーダーによる組織的緊張感の維持、選挙制度への不信

c) 「アマルガム」の指導者

- ・習近平と歴代の中国共産党指導者の政治的共通性

	習近平の政治論を構成する基本要素、政策内容	共有要素
毛沢東	・政治活動の基本理念、権力観、組織・イデオロギー論 ・「屈辱の近代」の復仇としての「社会主義現代化強国」の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大国志向の発想</li> <li>-「強い中国」の希求</li> <li>-「中国の独自性」の重視</li> </ul>
鄧小平	・発展観、近代化と改革の抽象的方法論	
江沢民	・国家の発展目標と統治技術の骨格 -ビジョン: 「中華民族の偉大な復興」、「二つの百周年」 -達成手段: 中国的法治(「依法治国」)、ナショナリズムの動員	
胡錦濤	・社会変化に適応した政策的肉づけ -「科学的発展観」、「調和の取れた社会」志向の経済社会政策	

- ・上の表に記されていない事項、例えば、外交、安全保障政策は、現在、最高指導者の地位にある習近平にとっては、みずからの名を歴史に残すための数少ない、オリジナルな手腕が発揮できる分野、譲歩しにくい部分

→地方指導者時代以来、「歴史」、「海」、「軍」、「台湾」などへの強いこだわりをもつ  
すなわち、ローカルに発想してグローバルに行動している可能性

## 2. リーダーシップスタイルからみた習近平の政治史的位置づけ、指導権強化の秘訣

### a) 経営学のリーダーシップスタイルとの関連でみた中国の指導者類型

名称	リーダーシップの特徴	中国の歴代指導者
アントレプレナー	・創造的破壊者、発明者	・毛沢東
マネージャー	・組織の調整役 ・組織内での新たな制度や手続きの導入、それらの経営方式への移行と標準化	・胡錦濤 ・江沢民はリーダーとマネージャーの移行、混合形態
リーダー	・戦略転換による不振事業や停滞経営の立て直し ・「組織を再度開発しなおし、活性化させる。それはたいていの場合、組織に新たな目的を与えることから始まる」	・鄧小平 ・習近平

出典: 谷口真美「コンテクストと経営者のリーダーシップスタイル」(『早稲田商学』第411・412号、2007年6月、47～50頁)  
の整理をもとに、中国の歴代指導者の項目を追加して筆者作成。

b) 選出方法に基づく指導者の3類型

名称	中国の歴代指導者
Emergent Leader	毛沢東、鄧小平
Appointed Leader	江沢民、胡錦濤
Elected Leader	習近平

出典：山下勝「リーダーシップ開発に関する一考察：リーダーシップ現象が起こる条件」（『青山経営論集』第50巻第2号、2015年9月、251～253頁）の整理をもとに、中国の歴代指導者の項目を追加して筆者作成。

c) 指導権強化をめぐる習近平の政治手法と政治認識の特徴

- ①サブ・リーダーへの心理的圧迫、及び、組織の構成員同士の緊張関係維持のための制度化
- ②トップ・リーダーとしての威信の誇示とサブ・リーダーに対する粘り強い説得、その際の毛沢東と鄧小平の権威の借用。企業でいえば、不可侵的存在の創業者と中興の祖の語録の利用
- ③党と軍の両組織の頂点に君臨するトップとしての組織横断、分野横断的な心理と論理
- ④中国共産党と中華人民共和国の歴史的継承者としての断固たる自覚と「権力への意志」、ときにはダブルスタンダードの批判も顧慮しない自己中心主義と政治的無答責の発揮  
例：政治的策謀の見逃しも、定年制の逸脱も、他人は許されないが、自分はよい
- ⑤指導権強化のための象徴的な宣伝スローガンによる雰囲気づくり、これに基づく制度、規則、手続きの修正の相互サイクル  
例：2015年と2016年の民主生活会「看齐」→18期6中全会「核心」→2017年の民主生活会「一錘定音」→19回党大会「主席責任制」の党規約明記→13期全人代会議、国家主席の連任制限撤廃→「定於一尊、一錘定音」
- ⑥(⑤の修正に関し)従前の政治原則の再解釈による実質的な制度変更、制度適応

### 3. 政治目標と国政運営の要諦：支配体制の永続化と21世紀半ばまでの覇権実現

a) 習近平本人を含む、彼と同世代（50歳代後半～70歳代前半）の中国指導者の共通認識

- ①中長期的な政治的時間感覚
- ②政治的作為性と政治的意志への独特な力感覚
- ③国家と個人が部分的に合一化したアイデンティティ感覚

b) 支配の要諦と追求すべき国家目標

- ①数千年の長きにわたる「中華」の歴史と文化への自尊心、及び、これを基礎とする被治者のナショナリズムの動員
- ②一党支配を中核とする既存の政治体制の維持
- ③清朝の領域版図を念頭に置いた国土の統一と領土の「失地回復」

c) 国家統治に関する具体的な主張のうち、中核に位置する三本柱

①国家目標である「中華民族の偉大な復興」の実現

②民主化運動による体制転換の阻止

③領土拡大と海洋進出の積極化

→①について、習近平は、建国百周年の 2049 年までに、中国が米国に代わって覇権国になるという目標を本気で追求している

d) 一人当たり GDP1 万ドル越えの社会と「中華民族の父」

・格差是正による次世代国民の支持獲得（経済）

・「習近平チルドレン」育成の教育、思想教化（思想）

→父権主義的リーダーシップ、家父長的政治指導の部分的復活

・個人と家族の私的領域にも強力に介入していく父権主義的なリーダーシップ

→それなりに満足できるまずまずの暮らし（2021 年「小康社会」の実現）のなかで、ハングリー精神を忘れて惰弱になった（ように見える）子や孫の「尻を叩く」モーレツ世代の父親

→国家目標の実現のため、生殖の分野にまで介入の手を伸ばしていく

少子化対策の「産めよ殖やせよ」も、「一人っ子政策」も、基本的発想は同じ

e) 2030 年代まで続く「習近平時代」

・政治史としての「習近平時代」

→次の 2 つのシナリオを想定、いずれの場合も 2010～2030 年代までの約 30 年間続く可能性

①「狭義の習近平時代」

・習近平が党主席、党総書記、国家主席、中央軍事委員会主席などの名目上の最高職に留まる

②「広義の習近平時代」

・習近平とその路線を引き継ぐ後継者（1～2 名）の任期を含む

・21 回党大会開催時の習近平の年齢は 73～74 歳（＝1978 年の 11 期 3 中全会で政治の主導権を掌握した鄧小平と同年）

→今後の中国のエリート政治の動向について、キーワードは「権力の伝統への回帰」

#### **4. その他の論点：習近平の権力基盤の構成**

a) 習近平政権の支持基盤と潜在的反対・対抗勢力

①着眼点

・政治的粛清は、既得権益の再配分の側面ももつ（例：人事、利権）

例：スターリンの大粛清＝幹部集団の世代交代の促進、国内の若手幹部の大量拔擢

例：2013～2022 年、汚職などで処分された幹部の人数 388 万 1000 人（年平均約 43 万人）

②個別集団（鄧聿文『不合時宜的人民領袖：習近平研究』独立作家出版、2023年、91—103頁）

・反対者

（党内）改革派官僚、長老とその派閥、開明的「紅二代」、反腐敗運動で失脚した高官

（社会）普遍的価値重視の「公共知識人」と弁護士などの権利擁護の活動家、一部の私営企業家  
集団、キリスト教信者、毛沢東主義左派

（国外）民主化運動グループ、各種反中勢力、法輪功

・支持者

-失脚ないし更迭された幹部のポストを埋める形で昇進した者たち

-習近平の子飼いの部下、それらの人びとに代表される福建・浙江・上海・浙江の各地方任地に関  
係する党内の新興勢力

-社会経済的劣位の状況にある一部の民衆（←反腐敗キャンペーンと貧困撲滅への支持）

-ナショナリズムに強く感化された人びと

-国家主義を信奉する一部の左派知識人

-軍委主席責任制の徹底のもと、軍内で抜擢された高級将校、及び、軍事訓練と実際の軍事行動で  
の軍功により昇進の期待可能性を高めている中・下級将校

→以上を総合すれば、政治的前提条件（例：米国の同盟ネットワークによる抑止態勢の強化、習  
近平の健康状態の悪化、経済不況の長期持続）に変化がない場合、2030年代における台湾有事  
の発生可能性は高い

以上

（2024年11月3日執筆）